

山名	保津溪・清滝・高雄	山行名	保津溪から高雄（例会）			
ルート	J R 保津溪駅→清滝→高雄→J R 京都駅					
山行日	2020年11月25日	天候	曇り			
参加者	C L 藤村 S L 和田 男性 山下 女性 河野 大西 上田 上杉 新人 川上 高橋 蒲田					
	コースタイム	地名	時:分	潜没橋着	11:15	
		J R 保津溪駅発		9:5	神護寺着	12:15
		落合橋着		9:40	槇ノ尾バス停前着	14:10
		清滝橋着		10:28		
<p>実施日については、近年の暖冬化により10月後半まで温かい年もあり、染まるのが遅くなる可能性も考えられ、又紅葉祭りが23日に開催されるとNETで案内されていたので人混みを避けて平日の25日に決めました。前日NETで確認すると高雄は見頃と案内されており、清滝は駄目でも高雄は鮮やかな紅葉が期待できると楽観していたが、見事に予想が外れ高雄でも散り始めて、午前中は上を見れば葉っぱのない枝ばかり、下を見れば落ち葉の絨毯が敷き詰められている状況でした。</p> <p>期待して参加された方には申し訳なく反省しております。コロナ禍を避けるために、J R 保津溪駅から清滝に向かい国道50号線を北東に進む。すれ違う人は殆ど誰もいなく又川を下る舟もなく更に対岸のトロコ電車も運休しているのか、30分ほどの間一回も姿を見ることはなかった。落合橋の近くに初めて写真を撮りたいと思う見事な紅葉ある。落合橋から川岸に降り、遊歩道を清滝に向かう。溪谷を彩る紅葉はなく広葉樹林の葉は殆ど落ち、落ち葉の中を歩くことになる。曲がり角を超えて新しい風景を見る都度、紅葉はないかと探すが、何もなく気が滅入りながら、清滝に到着する。清滝の駐車場と愛宕山登り口の鳥居周辺にほんの少し紅葉が残っていた。</p> <p>梨ノ木林道を北に進み月輪寺分岐に到着する。別れ道横で休憩している人がおり、神護寺の紅葉はどうかと聞こうと思うが、全然と言われると辛いので、そのまま通りすぎる。潜没橋手前の広場で紅葉を見ながらの昼食を計画していたが、全く紅葉がなくまたもや裏切られることになる。たぶん高尾山もこの上流なので、駄目だろうと思いながら杉並道を通り、大きな垂直岩を見ながら錦雲峡を歩き高雄橋に到着するとそこには、紅葉がまだ残り、写真を撮れる風景がある。</p> <p>対岸のもみじ家別館「川の庵」へのつり橋は紅葉の中にあり、又川床長屋の屋根には落ち葉が堆積していた。昨年この場所を訪れた時に、高雄橋の横で名物の高雄団子を販売していた茶屋がコロナ禍の為なのかなかった。神護寺参道は本日一番の登りで、平坦な道ばかりの歩行に慣れている足には少し辛い登りである。中間地点まで登るとようやく紅葉をバックに集合写真を撮れた。</p> <p>参道途中の硯見亭ではうどん類、高雄茶屋ではもみじ饅頭、みたらし団子が売られている。客もまばらにいた。神護寺には、まだ少し紅葉が残り約2時間程度ゆっくりと見学する。ここまでよい紅葉がなく落胆していた気持ちを元気づける艶やかな紅葉が、長い参道の両側、多宝塔周辺、かわらけ投げの地藏院までの道中にあり、参加者にすこし満足していただく。</p> <p>京都の隠れ里「三尾」の真ん中に位置する西明寺も紅葉で有名なので、寄り道をして前を通るが、手前の指月橋は枝ばかりに囲まれ白々していた。来年に再度計画して、溪谷を彩る紅葉を皆様と一緒に今度こそ感動したいと思います。 ヒヤリハット なし</p>						

感想文

和田 千恵

保津峡から清滝川の清流を眺めながら、時季が少しだけ遅かったか？とほいうもののやはり北山の紅葉の美しさは見事。

一面茶色のもみじの葉が埋め尽くした川岸、黄緑色の苔むした石が川床に散らばっている仁淀ブルーならぬ清滝ブルー？の水の色に癒され緩やかな東海自然歩道のトレイルを楽しんだ。

神護寺では今日一番の急登とみんなで話しながら石段を登り、国宝の薬師如来像を拝顔、広い境内を満喫し、もっと早く知っていたらと、今日のコースの再来を思った。

山下 隆。

表参道から愛宕山に登り、下山口は JR 保津峡 のコースは何度も行ったこともあり、下山時に駅に近づいた時に見え隠れする清流と河原はその日の山行の疲れを癒してくれる景色だった。あるときはその河原を猿の群れが独占していた。その河原に沿って嵐山までハイキングが出来たらとの願いは 以前からずっとあったが、積極的にコースを調べたりまではしていなかったので、今回の藤村さんの企画に乗らせてもらった。今回は観光地の嵐山は回避しているので新型コロナも避けたルートなので安心した。

予定の 2/3 位まで来たところで、いつか来た道 あーあそうだよ！ 以前、東海自然歩道シリーズを企画していた時に来た道だった。昔の資料を見ると、2013.1 月、清滝—高雄—沢池—源光庵を歩いた道と一部かさなり、京都トレイルも一部かさなっていた。数年立つとよほど印象的でなければかなり忘れてしまい、再訪すると極めて新鮮だったりする。

平日だったせいもあり、すれ違う方々も少なく、整備された溪流のほitori歩きを堪能できた。絵になる所も多い。紅葉はピークを過ぎていて残り紅葉だったが、ゴールの神護寺でまあまあの紅葉に出会えたのは救いだった。春の新緑の頃・夏の川遊び・秋の紅葉の時・冬枯れの時いつ来ても素晴らしいハイキングコースのように思えた。危険も少なく、登り下りの少ないところだったので、いつか仲間を案内する時の下見にもなりました。企画してくれた忙しい藤村さんに大感謝です。

蒲田 史

保津峡駅からしばらく歩き川沿いの道に出ました。川の水は底まで見えるほど澄んでおり、その横を歩くのはとても気持ちよかったです。清滝を通り、神護寺へ。途中、スギ林を通り抜けました。真っ直ぐ伸びているスギはとても美しく見えました。神護寺には紅葉は少し残っており、ドウダンツツジもきれいに紅葉していました。また、かわらけ投げも楽しみました。かわらけ投げは各地にあります。ここ神護寺が発祥の地ということです。

肌寒い日でしたが、心地良く歩くことができました。今回初めて参加させていただきました。皆さまにはお世話になり、ありがとうございました。

大西 良子

新人の方達も楽しんで散策しておられ、とても気持ちの和む山行でした。曇り空の中、木々の間からときおりさす光が紅葉樹を照らしなかなかの紅葉散策ができました。



神護寺参道
入口



神護寺参道途中
の錦雲溪